平成28年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	2271101335		
法人名	有限会社　在宅支援センターふれあい		
事業所名	グループホーム　ふれあい香貫	ユニット名	1F
所在地	静岡県沼津市下香貫楊原530-16		
自己評価作成日	平成29年2月24日	評価結果市町村受理日	平成29年4月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JigyosyoCd=2271101335-00&PrefCd=22&VersionCd=022

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	セリオコーポレーション有限会社　福祉第三者評価　調査事業部
所在地	静岡県静岡市清水区迎山町４－１
訪問調査日	平成29年3月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

小さな家庭菜園での野菜作りや収穫を利用者様と一緒に楽しんでいます。季節を感じていただくような工夫として、利用者様の培われてきた経験を活かし助言を頂きながらの、干し柿つくりやぼた餅作りなどの調理レクを取り入れ出来る力を発揮していただいています。又、外出レク誕生日企画では、ご利用者様ご家族様からのご要望を伺いながら一緒に外出できる行事を企画し実行しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

ホーム長とリーダーの指導の下、職員は働きやすい職場であると感じ、意欲をもってチームワーク良く介護に取り組んでいる。秋祭りで踊る場所を提供したり、料理レクリエーションの時に作ったぼた餅や恵方巻を近隣１０数軒にお裾分けしたりしている。地域の敬老会や自治会総会へ出席する等、地域との連携を深める努力を継続させている。その成果として、ホームの花火大会に近所の子供が自発的に遊びに来ることがある。月１回ずつ開催する全体ミーティングとフロアミーティングでは自由に意見が出ており、出席した職員は会議内容の確認と参画意識の向上等のため「研修記録」を作成し報告している。職員の意見も取り入れ、書式の改善を随時実施している。

Ｖ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
		○	2. 数日に1回程度
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念「みんな仲良く集う毎日」を朝の申し送りの際、唱和し、実践に繋げている。	会社の理念、ホームの理念そしてホームの年度目標「レク活動と行事の充実」を申し送り後に職員全員で唱和し共有している。利用者と家族の希望を聞き、みかん狩り等の行事やバンド等のボランティアを受入れている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	行事参加の呼び掛け、手作り（餅、恵方巻）のお裾分け、秋祭りの踊りの場所提供、敬老会参加等、地域密着を働きかけています。	秋祭りの踊りに場所を提供し、料理レクリエーション時に作ったぼた餅や恵方巻を近隣10数軒にお裾分けしている。地域の敬老会や自治会総会へ出席する等、地域への働き掛けを継続させている。ホームの花火大会に近所の子供が遊びに来ている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近くの神社、周辺の散歩の際には、積極的に挨拶や、声掛けを行いご近所の方からもお話を頂き認知症を少しずつ理解して頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヵ月に一度、ホームでの利用者様の生活や様子を報告。事故、ヒヤリハットへの対策を報告。ご家族、相談員、包括の方々から意見質問等を汲み取り次に繋げています。	年度初めに計画し、年6回土曜日に開催している。地域包括支援センターや介護相談員、1～2家族が参加し、報告や話し合いを行い改善に生かしている。年1回はスライドショーでホームの日々の生活を知らせ、家族に喜ばれている。	運営推進会議には自治会長や民生委員・地域の住民等の参加が未だない。地域への働き掛けを継続し、ホームの大家さんも含め、地域住民が参加することに期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	2ヵ月に一度GH会議へ参加。他施設との情報交換相談を行っている。介護申請時等担当者との話をさせて頂いています。	市の介護支援課には運営推進会議報告を持参し、面談だけでなく電話でも随時確認や相談をしている。生活保護利用者の関連で社会福祉課の来訪が年1回あり、介護相談員の来訪も毎月1～2回ある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修、ミーテイングで身体拘束について、勉強話し合いの場を設け理解に努めている。構造上、玄関は施錠されているが外出の際には適切に対応している。	身体拘束ゼロ宣言をし、スピーチロックを含め、各ミーティングや研修で指導をしている。特に「待っててください」を言わないことを徹底しているが、新しい職員がさらっと言ってしまうことがあり、その都度厳しく注意している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	研修、ミーティングで勉強、話し合いの場を設け、また日頃より利用者様を敬い尊重する声掛けに徹しています。		

※複数ユニットの外部評価結果は1ユニット目の評価票に記入されています。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者、一部職員は、研修で学ぶ機会があり熟知に努め必要に応じ活用できるよう関係者に繋げています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前には、面接訪問をし、入居時には契約書に沿って解りやすく重要事項の説明を行い質問に答えている。退去時も説明を行いながら解約の手続きを行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や利用者様との会話の中で頂いた要望やクレームについては、報告書として書式に残し本部への報告を行なうと共にミーティング等カンファレンスを行なっています。	家族からは、運営推進会議参加時や来訪の際に要望や意見を聞き、できるだけ細かく報告し会議等でも職員間で共有を進めている。1か月半に1回、家族宛に「お便り」を郵送し、今後の予定や利用者毎の近況、お願い事等を知らせている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月２回フロアーミーティング、全体ミーティングを設け、職員より意見提案を吸い上げている。また、勤務中においても職員との会話を大切にし汲み取れる様工夫しています。管理者ミーティングに繋げている。	全体とフロア毎のミーティングを月１回ずつ開催し、自由に意見が出されている。出席した職員は、会議内容の確認と参画意識の向上等のため「研修記録」を作成し報告している。職員の意見も取り入れ、書式は随時改善させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	実績勤務状の把握できています。働きやすい環境の場となるよう要望とを聞き取りその度対応しています。キャリアパスを取り入れ仕事のやりがいを持てるよう環境整備をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修が充実し、シフトの調整を行いながら外部研修、職員個人に会った研修参加を促している。また、ミーテイング時には研修委員によるフィードバック等短時間の研修も実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	2ヵ月に一度、GH会議へ参加している。他の事業所見学、その都度意見交換や相談の機会を設けサービスの向上に努めている。		

※複数ユニットの外部評価結果は1ユニット目の評価票に記入されています。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の要望をくみ取るために耳を傾けながら可能な限り、ご家族又は関わりの有った方々からの情報に基づき安心信頼関係作りに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	関係者が共同でケアをするとともにご家族の不安、要望等に耳を傾け信頼関係作りに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人とご家族の要望を汲み取り今、必要としている支援を見極めるように努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る力の継続を目指し尊重し、声かけを大切にし不十分な部分の支援を行なっています。身体的に不可能な方からも、人生の先輩として経験や知識を出して頂けるような話しかけに努めます。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	催事やレクレーションのお誘いを通して家族との絆を深めて頂くよう努めています。面会時には日常の様子を分かりやすくお伝えしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族との外出、外泊の支援に努めます。誕生日には、ご家族や友人との食事会を計画、関係が途切れない様、支援に努めます。	家族と孫の結婚式や法事に出席したり、職員同伴で墓参りに行く利用者がいる。家族と食事会や遠方のクルージング・コンサートに出かける利用者もいる。自宅の近所の方が食事を持ち込み、外出が困難な利用者と過ごすこともある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様の性格、人柄、生活歴等を考慮し、良好な関係が保てる様、席の配置や見守りに努めています。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も健康状態や生活について伺ったり、催事へのお誘いを行っております。退去後も必要に応じて本人、家族の相談や支援に努めています。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本に希望、意向を尊重し可能な限り行っています。困難な場合でも、検討しながら希望に添えるよう支援しています。	全職員が利用者一人ひとりに関心を持って支援に努めており、気付きは特記して共有している。それらを本人を中心とした家族や他の利用者・職員等との関係づくりに役立てている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居の際、ご本人、ご家族より生活歴、生活環境などの情報を頂き、職員間で情報の共有、周知を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	体調に考慮した過し方や入居時体調変化時には、センター方式の24Hシートの活用で日常生活の状況把握が出来るよう努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日常気付いたことをミーティング等で話し合い、心身状態の変化に応じてご本人、ご家族、医療関係者と話し合い、ケアプランを見直し介護計画を作成している。	毎月のフロアミーティングでは、主に3名の利用者について重点的に話し合っている。利用者の変化を敏感に感じ取り、家族の希望を伺い合わせたうえで、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録、日誌、申し送りノートの活用。朝夕の申し送り等で職員間の情報を共有し実践へ反映している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	快適に且つ穏やかに過ごして頂ける様、通院介助、物品購入、外出支援、一人一人の状況に応じた支援やサービスに取り組んでいます。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣市町村一般ボランティアご家族様ボランティアの活用。又、調理レク手作りレクを行なった時には近所へのおすそ分けし交流しています。散歩買物の支援を行なっています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医以外の受診等の同席やご希望に添って受診対応を行なっています。又、医療連携医の月2回の往診の立会い情報共有ご家族様への報告、特変時には医療連携医との連携を取り適切な対応を行っています。	本人家族の希望により、殆どの利用者が医療連携医の定期往診を受けている。従来からの医師の診療を受ける利用者には、受診時に健康管理表のコピーを渡し適切な受診が受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問診療部看護師、施設巡回看護師への相談は、直通の連絡先での対応が出来ています。疑問に思った事や服薬の指示を頂き対応しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時に生活必需品をお届けする。その際医療機関と連携し情報交換を行い家族様に説明しています。入院時には、こまめに入院先へお伺いして情報を頂いています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医医療関係者との説明を開催し、ご家族ご本人との今後の対応の意向を伺いながら、ご本人ご家族職員と情報交換説明を行なっています。医療との関わりや支援方法、お看取りのケアプランを作成し、支援を行なっています。	状態変化に伴う家族の意向は、その都度確認し方針を共有している。看取りのためのケアプランはもとより、支援の流れや急変時の対応を細かく記しており、職員や家族が協力して取り組める体制ができている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルに沿ってミーティングでいつ、どこでなにがあってもすぐに対応できる様に行っています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練に参加し消防署員立会いの防災訓練を行なっています。	年2回の防災訓練の他、法人の避難訓練や地域自主防災訓練に参加している。夜間想定訓練や上階への避難・水や食糧の備蓄等、具体的なテーマで取り組んでおり、津波に対してはライフジャケットの購入も検討している。	

※複数ユニットの外部評価結果は1ユニット目の評価票に記入されています。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	現状だけでなく、これまでの生活歴や性格を把握し支援や声かけを行なっています。親しみのある対応の中にも、利用者様の立場になって考え共感の気持ちで対応しています。	生活歴の把握や利用者の話を聞く中で支援のヒントを見つけることが多く、一人ひとりを尊重したケアにつなげている。利用者の呼称は苗字で統一している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の言葉だけではなく、表情や日常の会話から察する理解力を持つよう、時にはこちら側からも声掛けを行う。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の業務や集団生活の枠組みに無理に合わせることが無い様、趣味や休息時間を考慮し、心穏やかに過ごして頂く。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整髪時や着替えの際に（似合う）等の声掛けを行い、利用者様自身に自身の身なりに興味を持って頂く様心掛けている。移動美容室の利用等の支援を行なっています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	施設内菜園で季節の野菜を収穫している。節分の太巻きや、お彼岸のおはぎのような季節の料理を利用者様参加で作ったり、時には餃子を全員で作ることで、食事の楽しみを持って頂いている。	日常では、参加できる利用者が積極的に台所仕事に取り組み、多くの利用者が参加できる調理レクリエーションも度々開催している。テレビで見た料理を職員が実演して驚かせる等、ホーム全体で食を大切に楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日々の記録を基に必要に応じ医師、看護師の指示を仰ぎ、個々の体調に合わせ対応している。変更等は、フロアミーティングでスタッフ全員確認を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	なるべく自身で行って頂くが、見守りや仕上げ磨き等の支援を行い、口腔衛生の保持に努めている。		

※複数ユニットの外部評価結果は1ユニット目の評価票に記入されています。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿意、便意のある方には、排泄表を活用し自立支援に努めています。	失敗を重ねつつも職員は根気よく声掛けして排せつの自立を支援している。チェック表を活用したり食の面からの改善を図る等で、重篤な利用者以外はトイレで排せつできるように取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝乳製品の提供を行い、家事、レク活動時に体を動かして頂くよう声掛けを行っています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴スケジュール表はあるが、声掛けの工夫によりご希望に添えるように努めています。	基本的に週2回の入浴を実施している。、寒い時期は30分前に暖房を入れており、利用者によっては音楽をかけながら快適な入浴ができるように支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は個々の希望にて居室、ソファー等で過ごして頂いています。夜間は温度調節や湯タンポを入れたりと支援を行っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬チェック表にはそれぞれの服薬が把握できるようになっている。個人ファイルに処方薬内容を記載している。副作用について知識向上に努め変更時には申し送り等で伝えている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居時や日常会話の中から情報収集し、塗り絵やパズル、月2回のボランティアの方による習字レク等を行って頂いています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や外出希望の利用者様には可能な限り努めています。また、誕生日には外食や買い物等希望に添えるように努めています。	天候によって庭でラジオ体操をしたり、日常的には周辺や近くの神社を散歩コースとしている。外食やお花見、家族との外出、また希望を叶えるための職員との外出等をしており、周囲の方々と協力して支援している。	

※複数ユニットの外部評価結果は1ユニット目の評価票に記入されています。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人様、ご家族と相談しながらご希望の買い物などの支援に努めています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人様のご希望に寄り添い手紙等やり取りができる様支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎月季節感のある壁面飾りや行事などの写真を掲示して思い出話しをしています。	居間からは周辺の山や空が望め、明るい雰囲気である。歌の好きな利用者が多く、大きな文字で歌詞を書いた紙を見ながらみんなで合唱していた。ベランダ越しに水仙が咲いており、職員が話題作りをしていた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自由に寛ぐ事が出来るよう、ソファーの位置の工夫を行い座って頂いたりしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	安全を確保しながらお好みの家具やご家族の写真を飾ったりしています。	居室は利用者の身体的な状況を考慮し、安全に過ごせるように工夫している。家族が新しい家族写真に飾りかえたり、花を届けたりと居心地よい空間づくりを支えている様子が窺えた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	散歩や外出希望の利用者様には可能な限り努めています。また、誕生日には外食や買い物等希望に添えるように努めています。		

※複数ユニットの外部評価結果は1ユニット目の評価票に記入されています。

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2271101335		
法人名	有限会社　在宅支援センターふれあい		
事業所名	グループホーム　ふれあい香貫	ユニット名	2F
所在地	静岡県沼津市下香貫楊原530-16		
自己評価作成日	平成29年2月24日	評価結果市町村受理日	平成29年4月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JigyosyoCd=2271101335-00&PrefCd=22&VersionCd=022

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	セリオコーポレーション有限会社　福祉第三者評価　調査事業部
所在地	静岡県静岡市清水区迎山町4－1
訪問調査日	平成29年3月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

小さな家庭菜園での野菜作りや収穫を利用者様と一緒に楽しんでいます。季節を感じていただくような工夫として、利用者様の培われてきた経験を活かし助言を頂きながらの、干し柿つくりやぼた餅作りなどの調理レクを取り入れ出来る力を発揮していただいています。又、外出レク誕生日企画では、ご利用者様ご家族様からのご要望を伺いながら一緒に外出できる行事を企画し実行しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

※複数ユニットの外部評価結果は1ユニット目の評価票に記入されています。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)		1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
		○	3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
		○	2. 数日に1回程度
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)		1. ほぼ全ての職員が
		○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本理念「みんな仲よく集う毎日」にのっとり、笑顔が絶える事なく安心して生活できるよう支援しています。	※複数ユニットの外部評価結果は1ユニット目の評価票に記入されています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	行事参加の呼びかけや、秋祭りで、踊りの場所提供、地域主催敬老会参加等積極的に行っています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近くの神社、ホーム周辺の散歩の際には、近所の方々より気軽に挨拶や会話がある。会話により認知症を少しずつ理解していただいています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度、ホームでの利用者様の生活様子を報告。又、事故やヒヤリハットへの対策を報告。ご家族からの意見質問を汲み取り、次に繋げています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	2ヶ月に一度GH会議へ参加。他施設との情報交換相談を行っている。介護申請時など担当者との話をさせて頂いています。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修ミーティングのばで身体拘束について話し合いの場を設け理解に努めている。構造上玄関施錠閉まっているが、外出希望があったときなど適切な対応を行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	研修ミーティングで勉強する機会を持ち常日頃から、利用者様を敬い声かけ注意を徹底しています。		

※複数ユニットの外部評価結果は1ユニット目の評価票に記入されています。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者1部職員は研修で学ぶ機会が有ります。利用者様で、必要に応じ活用できるよう関係者に繋げています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前には、面接訪問を行い入居時には、分かりやすく契約書に添って重要事項説明等行い、質問に答えている。退去時も、説明を行い解約の手続きを行っている。		
10	（6）	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や、利用者様との会話の中で頂いた要望クレームについては、書式に残し対策を話し合っています。		
11	（7）	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月2回のフロアミーティング全体ミーティングを設け、職員より意見提案をすいあげ、管理者ミーティングに繋げています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	実績勤務状況の報告で、把握できています。働きやすい環境の場となるよう職場の要望等を聞き取り対応しています。キャリアパスを取り入れやりがいをもてるよう環境整備している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修が充実しています。外部研修と合わせ職員個人に合った研修参加を促し、シフト調整も行っている。ミーティングの際研修委員による短時間の研修も実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	2ヶ月に1度グループホーム会議への参加。他の事業所見学など、その都度、意見交換や相談の機会を設けサービスの向上に努めています。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の要望をくみ取るために耳を傾けながら可能な限り、ご家族又は関わりの有った方々からの情報に基づき安心信頼関係作りに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	関係者が共同でケアをするとともにご家族の不安、要望等に耳を傾け信頼関係作りに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人とご家族の要望を汲み取り今、必要としている支援を見極めるように努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る力の継続を目指し尊重し、声かけを大切にし不十分な部分の支援を行なっています。身体的に不可能な方からも、人生の先輩として経験や知識を出して頂けるような話しかけに努めます。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	催事やレクレーションのお誘いを通して家族との絆を深めて頂くよう努めています。面会時には日常の様子を分かりやすくお伝えしています。		
20	（8）	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族との外出、外泊の支援に努めます。誕生日には、ご家族や友人との食事会を計画、関係が途切れない様、支援に努めます。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様の性格、人柄、生活歴等を考慮し、良好な関係が保てる様、席の配置や見守りに努めています。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も健康状態や生活について伺ったり、催事へのお誘いを行っております。退去後も必要に応じて本人、家族の相談や支援に努めています。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	（9）	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本に希望、意向を尊重し可能な限り行っています。困難な場合でも、検討しながら希望に添えるよう支援しています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居の際、ご本人、ご家族より生活歴、生活環境などの情報を頂き、職員間で情報の共有、周知を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	体調に考慮した過し方や入居時体調変化時には、センター方式の24Hシートの活用で日常生活の状況把握が出来るよう努めています。		
26	（10）	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日常気付いたことをミーティング等で話し合い、心身状態の変化に応じてご本人、ご家族、医療関係者と話し合い、ケアプランを見直し介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録、日誌、申し送りノートの活用。朝夕の申し送り等で職員間の情報を共有し実践へ反映している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	快適に且つ穏やかに過ごして頂ける様、通院介助、物品購入、外出支援、一人一人の状況に応じた支援やサービスに取り組んでいます。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の商店への買物や散策を行なっています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医以外の受診等の同席やご希望に添って受診対応を行なっています。又、医療連携医の月2回の往診の立会い情報共有ご家族様への報告、特変時には医療連携医との連携を取り適切な対応を行っています		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問診療部看護師、施設巡回看護師への相談は、直通の連絡先での対応が出来ています。疑問に思った事や服薬の指示を頂き対応しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時に生活必需品をお届けする。その際医療機関と連携し情報交換を行い家族様に説明しています。入院時には、こまめに入院先へお伺いして情報を頂いています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医医療関係者との説明を開催し、ご家族ご本人との今後の対応の意向を伺いながら、ご本人ご家族職員と情報交換説明を行なっています。医療との関わりや支援方法、お看取りのケアプランを作成し、支援を行なっています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルに沿ってミーティングでいつ、どこでなにがあってもすぐに対応できる様に行っています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練に参加し消防署員立会いの防災訓練を行なっています。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	現状だけでなく、これまでの生活歴や性格を把握し支援や声かけを行なっています。親しみのある対応の中にも、利用者様の立場になって考え共感の気持ちで対応しています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の言葉だけではなく、表情や日常の会話から察する理解力を持つよう、時にはこちら側からも声掛けを行う。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の業務や集団生活の枠組みに無理に合わせることが無い様、趣味や休息時間を考慮し、心穏やかに過ごして頂く。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整髪時や着替えの際に（似合う）等の声掛けを行い、利用者様自身に自身の身なりに興味を持って頂く様心掛けている。移動美容室の利用等の支援を行なっています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	施設内菜園で季節の野菜を収穫している。節分の太巻きや、お彼岸のおはぎのような季節の料理を利用者様参加で作ったり、時には餃子を全員で作ることで、食事の楽しみを持って頂いている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日々の記録を基に必要に応じ医師、看護師の指示を仰ぎ、個々の体調に合わせ対応している。変更等は、フロアミーティングでスタッフ全員確認を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	なるべく自身で行って頂くが、見守りや仕上げ磨き等の支援を行い、口腔衛生の保持に努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿意、便意のある方には、排泄表を活用し自立支援に努めています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝乳製品の提供を行い、家事、レク活動時に体を動かして頂くよう声掛けを行っています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴スケジュール表はあるが、声掛けの工夫によりご希望に添えるように努めています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は個々の希望にて居室、ソファー等で過ごして頂いています。夜間は温度調節や湯タンポを入れたりと支援を行っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬チェック表にはそれぞれの服薬が把握できるようになっている。個人ファイルに処方薬内容を記載している。副作用について知識向上に努め変更時には申し送り等で伝えている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居時や日常会話の中から情報収集し、塗り絵やパズル、月2回のボランティアの方による習字レク等を行って頂いています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や外出希望の利用者様には可能な限り努めています。また、誕生日には外食や買い物等希望に添えるように努めています。		

※複数ユニットの外部評価結果は1ユニット目の評価票に記入されています。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人様、ご家族と相談しながらご希望の買い物などの支援に努めています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人様のご希望に寄り添い手紙等やり取りができる様支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎月季節感のある壁面飾りや行事などの写真を掲示して思い出話しをしています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自由に寛ぐ事が出来るよう、ソファーの位置の工夫を行い座って頂いたりしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	安全を確保しながらお好みの家具やご家族の写真を飾ったりしています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	車椅子移動の方や杖歩行の方など皆さんが安全に過ごせるような環境づくりに努めています。		